

# 平成30年度南河内中学校区小中一貫教育ブランドデザイン

## 下野市学校教育目標

- 1 自主的に学び、主体的に問題を解決しようとする子どもを育てる。
- 2 豊かな情操と道徳性を備え、礼儀正しい子どもを育てる。
- 3 自他の生命・人権を尊重し、強い意志と健康な身体をもつ子どもを育てる。
- 4 勤労・奉仕の精神を理解し、すすんで社会のために尽くそうとする子どもを育てる。
- 5 郷土の文化と伝統・自然に誇りをもち、自信をもって(国際)社会で活躍できる資質を備えた子どもを育てる。

## 南河内中学区小中一貫教育目標

- ふるさとを愛し、夢に向かって高め合える子を育む
- ・すすんで学ぼう
  - ・心をみがこう
  - ・体をきたえよう

## 下野市小中一貫教育の方針

- 9年間の学びをつなぎ、確かな学力、健やかな体の育成、豊かな心の育成を保証します。
- 9年間の一貫した児童生徒理解により、子どもたちが安心して学べる場を提供します。
- 郷土への理解を深め、ふるさとを愛する心を育てる教育活動を推進します。「学校運営協議会」の導入により、「地域とともにある学校づくり」を推進します。

## 地域の様子

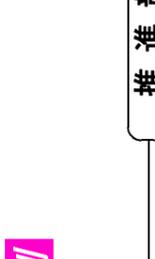
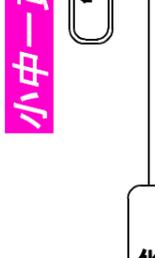
下野市の東にあり、豊かな自然に恵まれ、下野薬師寺跡などの文化遺産もある。国道新4号が南北に走り、「道の駅」がにぎわいを見せている。比較的、三世帯同居の家族が多く、新居住宅も増えている。地域の連帯意識は高く、保護者や地域住民は学校の教育活動に協力的である。

## 9年間で目指す子ども像

<b>小1</b> ← 学びの基礎をつくる →	<b>小2 小3 小4</b> ← 学びの基礎をつくる →	<b>小5 小6 中1</b> ← 学びを広げる →	<b>中2</b> ← 学びを深める →	<b>中3</b> →
○進んでなにかよく勉強する子 ○友だちに優しくできる子 ○元気に楽しく運動する子	○自ら考え学び合える子 ○心やさしく助け合う子 ○体をきたえたりぬぐ子	○自ら学んで互いに高め合える子 ○心豊かで助け合える子 ○健康で元気な子		

## 児童生徒の様子

素直で穏やかな児童生徒が多い。異学年交流が盛んで、下学年を思いやる優しさがある。また、委員会活動や美化活動に進んで取り組んでいる。学習面では、真面目で実直に物事を行える良さをより生かして、学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上に取り組んでいる。



## 小中一貫教育推進体制

管理職部会

プロジェクト部会

推進部会

### 学力の向上をめざす

- ◎重点教科(国、算・数)の指導連携
- ◎家庭学習強化週間(リ-ゲ-ムデー-)の実施
- ◎学習のきままりの定着
- ◎学力調査に基づく共通の課題の対策

### 豊かな心を育てる

- ◎子ども未来プロジェクトの推進
- ◎道徳教育の推進
- ◎生活のきままりの徹底
- ◎スクールカウンセラーとの連携

### 体力の向上をめざす

- ◎体力向上の推進
- ◎健康面での家庭との連携
- ◎共通の健康課題の改善と保健指導(地域学校保健委員会の検討)

### キャリア教育を推進する

- ◎学校間のつながりを大切にした特別活動の実施
- ◎地域の教育資源を生かした「ふるさと学習」の充実
- ◎特別支援教育の連携
- ◎職場体験学習の実施

### コミュニケーション力を育てる

- ◎しもつけ未来学習の推進(英語による発信力の育成)
- ◎小中交流活動の推進(合唱、部活動、学校行事)

## 地域とともにある学校

### 薬師寺小学校

児童数 341名



ふるさと体験学習

薬小祭・薬小っ子集会

### 吉田東小学校

児童数 84名



鼓笛隊

祖父母とのわら鉄砲作り

### 吉田西小学校

児童数 86名



トウガラシ保存活動

蔵王祭

### 南河内中学校

生徒数 212名



体育祭3学年縦割りによる応援団

全校生徒による花植え

# 南河内中学校区

## 【目指す子ども像】

小1 小2 小3 小4 ← 学びの基礎をつくる →	小5 小6 中1 ← 学びを広げる →	中2 中3 ← 学びを深める →
<ul style="list-style-type: none"> <li>○進んでなかよく勉強する子</li> <li>○友だちに優しくできる子</li> <li>○元気に楽しく運動する子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら考え学び合える子</li> <li>○心やさしく助け合う子</li> <li>○体をきたえやりぬく子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら学んで互いに高め合える子</li> <li>○心豊かで助け合える子</li> <li>○健康で元気な子</li> </ul>

## 【重点項目】

- ・重点教科（国・算・数）の指導連携
- ・子ども未来プロジェクトの推進
- ・共通の健康課題の改善と保健指導
- ・地域の教育資源を生かした「ふるさと学習」の充実
- ・しもつけ未来学習の推進

「目指す子ども像」実現に向けて、義務教育の9年間を通して、子どもたちが身に付けなければならないものをしっかり習得させるために、4校で指導の重点項目及び課題を共有した。さらに、年間指導計画の整備、小中間での情報交換と連携を図った。

## 各部会の取組

### <学力の向上をめざす部会>

#### 【児童生徒の実態】

素直で穏やかな児童生徒が多い。異学年交流が盛んで、下学年を思いやる優しさがある。また、委員会活動や美化活動に進んで取り組んでいる。学習面では、真面目で実直に物事を行える良さをより生かして、学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上に取り組んでいる。

#### 【部会のねらい】

- ・9年間を見通した「書く」力を育む教育活動の連続性を確認・検討し、児童生徒の学力向上を図る。（国語科）
- ・指導内容の系統性を理解し合い、授業の質や指導力を高める。（算数・数学科）

#### 【部会の取組】

視 点	取組の具体(P・D)	成果	課題
<A> 教育課程の工夫改善	(算数・数学科) ・習熟度の低い「割合」に関する指導の系統性を理解し、それぞれの学年で指導の工夫を図る。	・系統性を教師が意識した授業を行うことで、児童生徒にどこを押さえさえるかが明確になり、授業の工夫ができた。	・既習事項の確認をていねいにやる時間がない。 ・今後は、他の領域でも系統性を図った指導に取り組んでいきたい。
<B> 教育活動の連続性の確保	(国語科) ・作文帳や原稿用紙を用い、行事ごとの感想文・週末の宿題(自主学習)に取り組ませる。 ・視写テキスト等を用い、原稿用紙の使い方の基礎基本の習熟を図る。	・文を書くことに対する抵抗がなくなり、長い文章を書ける児童・生徒が増えてきた。 ・基礎的事項の定着が図られ、学年が上がるにつれ作文がスムーズに書けるようになってきた。	・個別に直したり、指導したりする場がなかなか設けられず、時間が取れるよう、工夫が必要である。

### <豊かな心を育てる部会>

#### 【児童生徒の実態】

素直で穏やかな児童生徒が多い。異学年交流が盛んで、下学年を思いやる優しさがある。また、委員会活動や美化活動に進んで取り組んでいる。学習面では、真面目で実直に物事を行える良さをより生かして、学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上に取り組んでいる。

#### 【部会のねらい】

- ・小中の指導事項の連続性の確保と連携体制作りのため、教職員間の情報交換と4校共通の取組を実施する。
- ・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、小中の連続性について検討する。その上で、効果的な話し合いを授業で実践し、児童生徒の道徳性を養う。

#### 【部会の取組】

視 点	取組の具体(P・D)	成果	課題
<A> 教育課程の工夫改善	・授業中の話し合いを実践する。 ・道徳ノートを作成し、活用する。	・話し合いの仕方や発問での揺さぶりなど、実際に指導路案を持ち寄り、話し合いの仕方を共有した。  ・振り返りの工夫 ☆友達のよいところを書いた紙を伝えながら渡す。	・方法は様々な物があり、よりよい方法を知り、実践していくことが重要である。 ・発達段階に応じて、様々な工夫が考えられる。そのため、童・生徒の実態を踏まえて授業実践していくことが大切である。 ・義務教育学校を見据えて、道徳科の授業において、自分の考えをもち、友達と話し合うを通して、多様な価値観に気付いたり、お互いに高め合ったりできるような授業の創造に今後も努める必要がある。

<p>&lt;B&gt; 教育活動の 連続性の確保</p>	<p>・小中の「生活のきまり」「学校保健計画」「学校安全計画」のすり合わせをする。 ・校内の児童生徒の動きを統一する。</p>	<p>・4校で「生活のきまり」「学校保健計画」「学校安全計画」のすり合わせを行い、大枠で統一することができた。</p>	<p>・義務教育学校を見越し、さらに細部について話し合っていく必要がある。</p>
<p>&lt;C&gt; 教職員間の 連続・協働</p>	<p>・地域学校保健委員会の開催と活性化を図る。 ・交流学級、通級学級担任、特別支援学級、通級指導学級担任の連携体制を作る。</p>	<p>・小学校3校で統一した「生活のきまり」を作成した。また、中学校の指導事項とつながりがある点に印をつけて、小中の連携意識を高めた。さらに共通理解のもと、指導を実施したことで、小中共通の課題の洗い出しができたことが成果であり、中学校への見通しをもった指導ができるようになった。</p>	<p>・課題が「時間を守る」だったので、小中でできるだけ日課を揃え、義務教育学校を見越した日課で生活を始めていく必要がある。 ・「はきものをそろえる」等、作成する掲示物や児童生徒主体で規範意識を高めるというやり方についても統一していくとよい。</p>

## <体力の向上をめざす部会>

<p><b>【児童生徒の実態】</b> 素直で穏やかな児童生徒が多い。異学年交流が盛んで、下学年を思いやる優しさがある。また、委員会活動や美化活動に進んで取り組んでいる。学習面では、真面目で実直に物事を行える良さをより生かして、学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上に取り組んでいる。</p> <p><b>【部会のねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の運動習慣や保健分野に関する実態把握と9年間を見通した指導計画の整備を図る。</li> <li>・共通の健康課題の改善に向け、様々な取り組みを行う。 (姿勢アンケートをとり、実態の把握と改善に努める。)</li> </ul>
---

【部会の取組】			
視 点	取組の具体(P・D)	成 果	課 題
<p>&lt;A&gt; 教育課程の 工夫改善</p>	<p>・新体力テストの結果の共通理解を図り、指導計画を改善する。</p>	<p>・グラフを使って結果の共通理解を図り、実態を把握することができた。</p>	<p>・新体力テストで明らかになった弱みを4校で足並みそろえて伸ばすことが課題である。 ・技能を高めるための運動を紹介する資料をつくる。</p>
<p>&lt;B&gt; 教育活動の 連続性の確保</p>	<p>・共通の健康課題改善のための保健指導を工夫する。 (立腰タイムの実施)</p>	<p>・「姿勢」をテーマに、児童生徒・保護者アンケートを実施した。共通の項目は4校の合計や学校毎に比較し、南河内中学校区・各校の傾向をみることができた。</p>	<p>・改善状況の把握と継続指導を行いたい。また、家庭との連携が課題である。</p>
<p>&lt;C&gt; 教職員間の 連続・協働</p>	<p>・各校学校保健給食委員会への参加する。</p>	<p>・各校養護教諭が、南河内中学校区の学校保健委員会に参加することができた。よりよい学校保健委員会の内容、児童生徒への指導に向け、学びを深め、意見を交換できた。</p>	

## <キャリア教育を推進する部会>

<p><b>【児童生徒の実態】</b> 素直で穏やかな児童生徒が多い。異学年交流が盛んで、下学年を思いやる優しさがある。また、委員会活動や美化活動に進んで取り組んでいる。学習面では、真面目で実直に物事を行える良さをより生かして、学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上に取り組んでいる。</p> <p><b>【部会のねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の実施と小中間での共有を行い、工夫改善を図る。</li> </ul>
---

【部会の取組】			
視 点	取組の具体(P・D)	成 果	課 題
<p>&lt;A&gt; 教育課程の 工夫改善</p>	<p>○昨年そろえた年間指導計画を実施する。</p> <p>&lt;小学校&gt; ・3年…地域(学区内外、かんぴょう作りなど) ・4年…福祉(点字、車いすバスケなど) ・5年…環境(米作り、トウサワトラノオなど) ・6年…歴史・キャリア(修学旅行、薬師寺歴史館、職業)</p> <p>&lt;中学校&gt; ・1年…地域貢献(「皆が住みやすい町を創ろう」立て看板の制作・設置、PR動画作成など) ・2年…職業体験(生き方) ・3年…地域おこし・地域貢献、日本の文化</p>	<p>・他教科との関連が図れた。 4年の福祉の学習で、国語の単元(福祉)、6年の歴史(修学旅行)の学習で国語の単元(パンフレット作り)を抱き合わせで行うことで、時数の確保や教科横断的な学習ができた。 ・小中での学習内容を確認したり、つながりを考えたりすることができた。 ・年間指導計画をそろえたことで、教材の共有ができた。 ・その地域独自の教材や人材を使って学習できた。(薬師寺歴史館、トウサワトラノオ等)</p>	<p>・4年の福祉の学習、ふるさととの結び付きがあまり見られない。 ・5年の環境の学習では、社会科とも関連できるが、環境を扱う単元が最後にあるため、抱き合わせで行うことが難しい。 ・小6での職業調べで作成した発表資料やデータを中学校と共有することで、中1、2年での学習に生かせるとよい。 ・中1～3年のつながりがうすい。1年、3年の内容が似たものになる。小学校で地域の学習をしているのであれば、中学校でもっと発展的にしてもよい。1年で地域の歴史(下野市ができるまで)を入れることも次年度に向けて検討する。</p>

## <コミュニケーションを育てる部会>

### 【児童生徒の実態】

素直で穏やかな児童生徒が多い。異学年交流が盛んで、下学年を思いやる優しさがある。また、委員会活動や美化活動に進んで取り組んでいる。学習面では、真面目で実直に物事を行える良さをより生かして、学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上に取り組んでいる。

### 【部会のねらい】

- ・英語による発信力を育成するために、「書く」力を高め、どのように言語活動の中に取り入れるかを工夫・実践しその意欲を高める。
- ・系統性をもった児童会活動と生徒会活動の活動内容について考える。
- ・各学校でできるリーダー育成の方策について考え、小中交流活動を推進する。

### 【部会の取組】

視 点	取組の具体(P・D)	成果	課題
<A> 教育課程の 工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中交流活動を検討する。(学習交流等行っはどうか)</li> <li>・小中合唱交流について検討する。</li> <li>・挨拶運動・美化活動・時間厳守・姿勢・言葉遣い・身の回りの整理整頓・相互の行事参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流事業として、新入生保護者説明会は、小学校の要望を取り入れた形に本年度から変更した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱交流のあり方について検討が必要である。</li> <li>・各校間のTV会議をどう活用していくべきか。</li> </ul>
<B> 教育活動の 連続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動を通して、書く活動に慣れ親しむ。</li> <li>・書く活動を3小学校共通のワークシートを使用し、活動する。(This is my town)</li> <li>・共通のワークシートをもとに、プレゼンテーションする英文をポスターにし、発表する。</li> <li>・小中の児童会、生徒会において、主に専門委員会の活動内容において系統性を見つけ出す。9年間、ほぼ一貫した活動となるよう工夫をしていく。</li> <li>・各学校でリーダー育成のためにどのような活動ができるかや、具体的に行っている活動についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な「聞く」「話す」活動を行ってから「書く」活動に取り組む事で、音声と文字の一致を認識する児童が出てきた。</li> <li>・音声と文字が一致することで、音声から文字を推測して書こうとしていた。</li> <li>・スモールステップを踏むことで、無理なく「書く」活動に到達できた。</li> <li>・使用したい単語をなぞる活動をすることで、確認できた。</li> <li>・発表することをめあてにしたことで、児童が目的意識をもって「書く」ことができた。</li> <li>・南河中学区の各小学校において、委員会の名称や活動内容は様々であることがわかった。中学校の委員会との系統性について洗い出しができた。</li> <li>・リーダー育成については、発達段階を踏まえて、学校教育の様々な場面で実践ができる。今年度は小学校でも大きな行事で実験的に行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話活動における意味のある場面設定をする。(身近な事柄)</li> <li>・町紹介は周囲にあまり紹介するものがないため、難しい。</li> <li>・何のために「書く」かの意識付け。(発表等、誰にするのか。)</li> <li>→中学生に発表しても、中学生はすでに知っている事柄ばかり。</li> <li>↓</li> <li>・誰に、なぜするのかを確認する必要がある。</li> <li>・ワークシートを見ての発表になってしまう。</li> <li>・小中一貫に向けて、小学校同士及び小学校と中学校同士で委員会について統一して行うことは、学校規模の違いを考えると難しい部分はある。</li> <li>・中学校では様々な活動でリーダー育成の場面があるが、小学校ではそのような活動が少ない。</li> </ul>

## 成果と課題

### ◎成果

- ・中学校区を意識し、小学校3校で学習や生活のきまりを統一した。これにより、中学校の教育活動への適応がより円滑に進められるようになった。
- ・4校合同の取組を実施することができた。(立腰タイム、家庭学習強化週間など)
- ・「小中一貫の日」の実施により、小中職員間で意識の共有化が図れた。

### ●課題

- ・学校の実態に差があり、取組に開きがあった。今後は、幅を広げて取り組むなど、工夫改善が必要である。
- ・今年度の取組が次年度に生かせるような職員間、部会内での綿密な引継ぎを行う必要がある。
- ・次年度は、4校で教育計画を統一し、2022年度の義務教育学校開校に向けて、準備を進めていく。



コミュニケーション能力を育てる外国語活動



4校合同の立腰タイム